

〔座談会〕

新島襄の感化

—— 初期の同志社に学んだ人たち ——

出席者

伊藤彌彦

(大学法学部教授)

本井康博

(大学人文科学研究所協力研究員)

佐野安仁

(大学文学部教授)

竹中正夫

(大学神学部教授)

辻野 功

(京都造形芸術大学教授
大学法学部嘱託講師)

司会

河野仁昭

(同志社社史資料室長)



1879 (明治12) 年の卒業生と新島襄

新島襄の人柄

河野 お忙しくしておられる先生方にご出席いただきまして、恐縮に存じております。

ご案内のように、一九九〇年一月の永眠一〇〇年から一九九三年二月の生誕一五〇年の間、同志社ではいろいろな新島記念行事・事業をおこなっています。『同志社時報』でも永眠記念特集（八十八号）、「新島襄が出会った人たち」（九十一号）のほか、「新島襄をめぐる人々」といった企画を組んで参りました。

今回は新島襄はどういう人物を育てたか、あるいは草創期の学生生徒にどういう感化影響を与えたか、といった観点から、新島襄に迫ってみたいと願っているわけです。先生方はあらためてご紹介申し上げるまでもなく、専門領域との関連もあつて、新島や同志社人の思想、信仰、学術、社会的活動領域などについて研究の実績をお持ちの方々ばかりですから、司会者が余り交通整理のようなことをしないで、ご自由にお話しあい願いたいと思います。その方がいろんなご議論がでて、かえって有益だろうと思うのです。

ただ、あらかじめお断わり申し上げておき

たいことは、女学校の関係につきましては、学校それ自体の問題、新島とのかかわりあいとはともかく、そこに学んだ人たちに對する調査がまだ余り進んでいないので、女学校にもふれていただくことはいつこう差し支えありませんが、十分なご議論はむずかしいだろうということ。それから、創立後十余年間で卒業生の数はまだ僅かなのですが、できましたら、中途退学者にも言及していただきたいのです。そうするとかなり人数が多くなるだけでなく、一冊の伝記にしなければトータルにはとらえきれないような人物が少なからずいます。しかし、今回はなるべく新島ひいては初期の同志社との関係にしぼっていただいて、できるだけ多くの人をとりあげて下さいますと有難く存じます。今回の座談会は、初期同志社人物誌の第一弾というふうにお考えただければと思います。

いま、司会者は交通整理をしないと申しましたが、話のつかかりが必要なので、それを竹中先生につけて下さるようお願いいたします。

竹中 さまざまな領域で企画がなされていますが、生誕一五〇年を機会に、新島襄とい

う人物をもう一度見直そうということ、これは大変いい機会だし、ぜひやらねばならないことだと思えます。

見直す軸はいくつか考えられますが、その一つは、新島は出会いの人であつた、ということです。新島は著述を残さなかつた。説教にしてもメモ程度のものしか残していない。

また雄弁という点でいえば、宮川経輝とか海老名弾正の方が上だつたようにいわれます。

新島の説教や演説は、おそらくもの静かで、少し控え目な、ちよつと渋いものだったので、はないかと私は思います。そこに彼の人柄がでてくる。誠実さとか、暖かさ、そして「射る矢にこむる大丈夫の意地」といった氣迫がこめられていたと思うのです。

彼のそういう説教などを聞いた人たちが、会つて話をかわした人に、感銘を与えるものがあつたとみていいでしょう。この人のためなら一生懸命やつてあげようという心に余韻を残させるものがあつたと思いますね。

それともう一つは、新島は非常に暖かい配慮をする人であつた。あのように多忙で、しかも病気がちであつた。それでいて、学生生徒、中途退学者に対してまでも暖かい配慮を



佐野安仁氏



本井康博氏



伊藤彌彦氏

するのです。

佐野 中島力造が東京大学で教えるとき、最初に、学生を「だれだれさん」と「さん」づけで呼んだという記事を読んだことがあります。中島は同志社を中途退学した人ですが、私も、私はやはり新島の影響がこういうところに出ていると思います。

しかも、中島は、東京大学で人格主義倫理学の伝統の基礎をつくった人ですが、品性の陶冶、人格の陶冶といったことは、新島の念願というか、教育理念でもあったわけで、それを中島が継承しているな、というように思われます。

本井 新島は、学科を教える教師としてよりはむしろ、人格的なふれあい、魂の啓発というか、そういったものが生きてくるといったタイプの教育者ですね。

辻野 私は同志社の出身者については、主として社会主義者になった人たちのことを研究しているのですが、なんらかの具体的な理論じゃなくて、新島が学生たちに「何々さん」と呼びかける、そういう雰囲気がいちばん感化を受けたと、社会主義者になっていった人たちはほぼ共通して書いていますね。

本井 あの誇り高い熊本バンドの連中が、結婚して奥さんを「さん」付けて呼ぶ。これはやはり新島の感化だと。(笑)

竹中 新島にもう少し時間があつて、落着いて授業とか説教などの準備をすることが出来たら、私は相当な学者として貢献したと思いますし、悔いのない授業や説教が出来た人だと思ふ。彼の日記などを見ると、授業をなんとかやるのが精いっぱいだっただろうな、という感じを受けるのです。そういう状態で、健康を維持することに注意しなければならぬし、学校内に波風がたたないように気を配らなければならなかった。そして募金でしょう。あの人は本当に精いっぱい精魂かたむけて働いた人だと思ふのです。

河野 伝道もありますしね。これが彼の重大な使命の一つだったから。

竹中 そうそう。外国人宣教師たちが京都へ入ってくることさえむずかしいあの時代に、宣教師たちの期待にこたえなければいけない。ところが、英学校の設立認可の条件として、正課では聖書を教えないことをのんだわけだから、宣教師たちからいろいろ注文をうけています。



河野仁昭氏



辻野 功氏



竹中正夫氏

もう一つは、徴兵令の改正で、学生たちが同志社からどんどん去っていく。そういう中でじっと耐えながら苦悶し、苦悩し、祈る。その新島の気持がまわりの人々にも、いわゆる語らずに伝わって、われわれも助けてあげなくっちゃいけないと。たとえば海老名など、のちになつてからですが、新島先生を自分たちはずいぶんいじめたけれども、先生のその辛抱しておられる誠実な姿には打たれた、といったことを言ってますね。

河野 海老名に限らず宮川など熊本バンドの連中は、少なくとも在学中には新島を尊敬していないですね。蘇峰も自伝に、新島に対する先輩たちの評価にふれていますけれども。海老名は新島の偉さがわかったのは、彼らの卒業式のととき新島が「自分はその器ではない、しかし、いずれすぐれた人物が現われてこの事業を継承発展させてくれるだろうから、それまで器ではないけれどもやらざるをえない」という意味のことを語るのを聞いてからだ、のちに述懐していますね。

伊藤 そうですね。卒業式のととき新島の偉さが初めてわかったといっていますね。
本井 新島は、自分は校長にふさわしくな

いと思っていたのは確かですが、それ以上に教師の仕事よりも伝道を第一の使命だと考えていたような気がしますね。だから、授業のためにたとえ時間が十分得られたとしても、それに全身全霊を打ち込めたかどうかという疑問が、私には残るんです。

校長としての新島襄

河野 学校は間接的な伝道の最も有力な機関だという意味のことを、新島は明治十八年にアメリカン・ボードの役員に語っています。仙台の東華学校はその考えにもとづいて開設されたといつていいと言えるでしょう。しかし、新島が学校を伝道と結びつけて説くのは、おそらく寄附や人的援助を得るためなんで、学校には学校独自の使命があるという考えをもっていたのは確かだと思えます。だから山本寛馬の説得に応じて、正課では聖書を教えない英学校を京都につくった。先進諸国の学術や技術を、日本はぜひとも早く学ばねばならぬという考えがあったとみてよい。ただ、それだけでは知育偏重の弊害を生じるから、キリスト教による道徳教育を併行しておこなう必要があるんだというのが、彼の教育理念

というか、理想なんです。そうした点に限る限り、新島はその実をあげるべく同志社の教育に心血を注いだであろうと、私は思います。

ただ、草創期における私立学校の校長、つまり管理職あるいは行政職のトップとして彼はどうかだったか。私はその点に関しては多少疑問の余地があるなと思っています。募金運動の態勢づくりなどもそうですが、一つの組織を率いて事業をやるという……。

本井 才覚ですね。

河野 そういつてもいいでしょうが。

伊藤 朝の礼拝で説教をするでしょう。

河野 新島を含めて内外国教員が毎朝交替しましたね。

伊藤 それを聴いて蘇峰などは、新島先生「先生」と書いているわけですが、先生の説教は素晴らしいものであり、感銘を受けたといっていますよね。そういう内面に訴えるものが新島にあったことから察して、ある種の統率力があつたとみていいんじゃないかと……。

河野 そのことと管理行政とは、かならずしも一致しないのじゃないかと、管理職の末

端をけがしている私には思えるんです。

伊藤 それはそう思います。

本井 私もそう思いますね。管理職としての新島校長については、疑問があります。組織を維持運営していく最高責任者として上からの職責でもって統率し、押えていくというより、ハートで勝負しようとする……。それ以外にない人ですね。

たとえば、ある学生がたしか食堂の管理の在り方がだらしなからと、食堂規則をつくらうというので新島校長に交渉に行った。すると新島は「同志社は規則による統制を好まない。しかし、君がやりたいのならやりなさい」と、そういう態度を示す。普通の校長なら、学校にとって好ましくないのなら「やめたまえ」と言いますよ。すべてこの調子なんです。

熊本バンドの連中に対しても、外国人宣教師たちに対してもそうなんです。よく言えば、相手を信頼して任せるといふことなんです。うけれども。

竹中 河野さんの『蘆花の青春』の中に、蘆花が新島と別れる場面があるでしょう。

河野 あれは私の本というより蘆花の『黒

い眼と茶色の目』に書かれていることですけれども。

竹中 蘆花は新島邸の玄関先に人力車を止めておいて、応接間で会いますね。

河野 そうです。山本久栄と最後にもう一度会って話がしたいというので。別の場所であうつもりだったのに、そこしか八重と新島が許さないものだから。

久栄は新島と八重の間にはさまれて坐らされているんです、プライベートな話などしようがない。(笑)

竹中 いくらでも話をしなさい。ただし、自分たちはここにいます。(笑)

河野 先生と奥さんにはいてもらいたくない、と蘆花が言いましたも、動かなかつたんです。(笑)

竹中 蘆花が帰るとき、新島は彼が門を出るまでランプで照らしてやりますね。

河野 そうです。

竹中 夜だったんですね。新島もリベラリストだけれども、この恋愛を許すことはできない。それでこの青年は去って行く。相手は書生ですよ、熊本から出てきて、借金もたくさん残して、父や兄から託されていた新島自

身の期待も裏切つて、同志社を去ろうとするね。その新島からこういうかたちで送られたのでは、青年蘆花はかなわなかっただろうなという気がするね。(笑)

本井 でも、あの場面では新島の負けですよ。しかし、蘆花は臨終の床で、新島先生には恩義があるんだと蘇峰にいう。あそこで新島は勝ってますね。

竹中 ぼくは蘇峰の退学についてもそう思うのです。「君はどうしても辞めるのか」と、ついに説得を諦めますね、そして「じや一緒に記念写真を撮ろうじやないか」といったり、昼飯を食えといつて金を与えたりする。

河野 記念写真じゃなくて、新島の写真を記念にあげるんですね。

竹中 それに加えて、「大人であろうと欲するなら大人と思うなかれ」と書いてね。ああいう別れ方というのは、現代流にいえば非常にウエットな配慮というか、蘇峰にとってはあとあとまで心に残ったんじゃないか。新島にはそういうパーソナリティーがあつたと思いますね。

河野 私が思いますのは、そういうパーソナリティーと、管理職のトップにある者とし

ての職責ですね。はたしてうまくかみあつていたのか。一人一人に対する徹底した思いやりと組織原理の調和ですね。組織を維持し運営していくには、余りいい言葉じゃありませんが、なにか非情なもの、冷酷なものが要求される。新島は思いやりの方が勝ちすぎる気がするのです。

新島の説得を振り切つて退学した蘇峰や、湯浅吉郎らをまじえて五、六人で、新島は中山道を安中まで徒歩旅行するんです。蘇峰が退学してちょうど二年のちの明治十五年です。当時、蘇峰はもう信仰の方も怪しくなつていた。あの旅行は新島にとってなが目的だったのか考えさせられますね。

竹中 蘇峰にしてみれば、退学したけれども新島先生を依然慕つていたという証しでしょうし、先生をまじえての親睦会でしょう。新島からすれば、それだけまた彼らがいとしい。あの旅行では絵まで描かれていますね。

河野 はい、湯浅半月が描いたもので、新島が風呂へ入っていることを知らずに蘇峰と半月が入つてきて、素っ裸で平身低頭している。(笑)

竹中 あれはきつと、楽しい旅行だったか

ら描いたんですよ、そうでなかったら描かないな。彼らにそういう思いをさせる、そのところに新島のおもしろい面があると思うなア。

河野 寝覚めの床で、新島は若い連中とソバの食いくらべをしますよ。(笑)

伊藤 彼はそういう人だから、学生に対しては多分、学生部長はつとまらないでしょうし、職員に対しては総務部長はつとまらないだろうと——。いわゆるチャーチタイプとセクトタイプに分けるとすれば、セクトタイプでしょうね、おそらく。

竹中 たしかに管理者ではないね。遺言にもそう思われるところがあるんです、金森のところなんです。「金森通倫氏を以て余の後任となす差支ナシ」と言うわけですね。普通、管理者であるのならそこで終えたらよいのです。ところが、氏は事務には堪能だけでも、「徳二欠け或は小刀細工ニ陥ルの弊ナシ」というようなことをつけ加えるでしょう(笑)。そこまで言つたら、金森は後任としてやっていけなくなるのです。(笑)

本井 一言多いですね。

竹中 これが彼の心情なんですよ。

河野 小崎弘道が金森に代って新島の後任になった理由の一つは、きっとそこにあるでしょうね。

竹中 遺言を読んだらちよつとできないですよ(笑)。新島が管理者の才たけていたら、「私の後任は金森でよろしい」、これでピリオドだと思いますよ。ところが、彼は本当に心情の人なんです。

本井 管理者としては失格ですね。

竹中 そうなんだけれども、人間としては真実を重んじるところがあつたわけで。

河野 どうしてあそこまで言わねばならなかったのか、疑問に思いますね。

竹中 たしか死ぬ十日ほど前の横田安止あての手紙だったと思うけれども、最近の同志社は「……って、金森のことだろうと思われる人のことをちよつと批判的に書いています。」

河野 そうでしたか。

竹中 それを遺言にまでちゃんと入れるところが、真実一路の人という感じがしますな。

伊藤 その金森ですけれども、熊本バンド中心のバイブルクラスと、非熊本バンドで結集した同心交社が対抗関係にありましたと

き、熊本バンドの一員でありながら、同心交社にも入りたいと言ったり、何かと連絡をとっているのは金森なんですね。だから、両方を統合していくような人物として、貴重な存在だという評価が新島にありませんか?、後継者を金森にしたという判断なのかにはその一面があるいはあるのでは……。

河野 岡山教会から校長心得として呼び戻したんですからね。新島は大学設立募金運動で忙しいのに加えて、病気がちだったから。

竹中 岡山では非常に顕著な働きをしていんです。

佐野 金森に期待をかけていたのはたしかでしょう。いろんな意味で個々人の個性を新島はよく見ていた人だという気がしますね。

河野 「個儼不羈なる書生ヲ庄束」するな、と遺言するほどですから、たんに見ていただけではない、その個性を伸ばすべきだと考えていたと見ていいのはありませんか。その「個儼不羈なる書生」にしばしば苦汁を飲まされるんですけれども。退学もまた「個儼不羈」の一面でしょう、大久保真次郎、徳富蘇峰……。そうした個性の尊重と生徒管理は相反する面がありますね。

佐野 だからいわゆる管理的な発想での運営ではなくて、新島のあのやり方がまさに新島の組織管理のやり方ではないでしょうか、これ以上のことをしてはいけないということがよくわかっていたと違うかな。結局、人と人のかかわりで組織というのを生み出しているというんですか、運営しているという哲学があつたように思われます。それは同志社に延々とある意味では続いているように思います。

河野 全く同感ですねえ。新島は偉い教育者だと私感心しますのは、「個儼不羈」の字生たちにさんざん手を焼きながら、彼らを排除するどころか、遺言にまで尊重するように言うところ……。

本井 そうですよ、熊本英学校長時代の海老名弾正に、もつと骨のある奴をどんなよこせと、最近の同志社は都会的なよなよした者ばかり多くなつて困るんだと手紙で頼んでいる。あれはやはり上州人ですね。京都人とか都会の若者とはあまり肌が合わなかったのか。人間的な幅が広いですね。

中途退学者たち

伊藤 先ほど来話題になっていたいるその中途退学者のことですが、明治八年から二十四年の十七年間の普通科を対象に数を調べてみました。これは『同志社百年史』資料編の生徒名簿によるのですが、入学者数が一、三、四、卒業者数が一七九名、当時、在学者が二四〇名いるのです。差し引きすると八九五名退学しているのです。ですから一、〇七四分の一七九、わずか一六・七%しか卒業してないのです。だから、当時の同志社を客観的に見れば、一つの通過地点としての学校として、いろいろな形で同志社を利用していったというのが圧倒的に多いことだと思ふんです。

佐野 そうですね。たとえば中島力造にしても、津田仙が新島に、学農社に人をくれという要請で行っているんです。元良勇次郎も同じことなんですね。そういう意味では育てては送り出すということもかなりしているようです。

伊藤 だから入学するタイプを幾つかに分類できるだろうと思ふんです。熊本バンドが

来る前の設立当初からのメンバーがいますね、宣教師たちが送りこんできた。

それから熊本バンドがくる。そのあと開成学校経由のUターン組が横井時雄、山崎為徳それから和田正幾などです。和田はまた東京へUターンしていく。

何が彼らを同志社に引きつけたのかというと、やはり英語でしょう。外人教師がいて英語につよくなれる学校ということで、かなりはやらせている気がしました。

明治八年末の私塾が京都に十八校記録されていますが、そのうちで英学校は同志社一つだけです。明治九年になりますと、もう六十七名もの生徒を集めて、いきなりその中の最大手になっています。

河野 外国人教師から直接に英語が習えるというのは、強い魅力だったでしょうね。宮崎県都城の池袋清風なんか、はつきりそう書いています。

伊藤 堀貞一などもそうで、新島邸の玄関のところで英語が聞こえたから入学しようとか(笑)。入学者の多くは、立身出世の野望と、いろいろ重なり合いながら同志社に来てみた新島先生がいらっしゃったというふうな、

そんなことも多かったんじゃないでしょうか。

河野 来てみたらキリスト教主義の学校だったと……。

辻野 全くそのとおりだと思いますよ。私自身、日本の社会主義史の勉強してまして、その終着点が同志社になり、新島襄との結びつきが見えるようになった。

社会主義者の中には、同志社がキリスト教の学校と知らずに来た、あるいはそこなら学資を出してやるというので来た人が多いんですね。ところがその人たちはみんな逆転しまして、同志社で学んだこと、新島先生の教えを受けたことはものすごくよかったと言っている。たとえば安部磯雄は海軍の軍人になるために英語を勉強せんといかんというので同志社へ入った。同志社がキリスト教の学校だと知らずに来たと書いてありますね。岸本能武太もキリスト教は嫌だと思ひながら、学資を出してくれる人との関係でやむを得ず来た。

本井 退学者がたくさん出ていることの理由なんですけど、幻滅をしたというのも確かにあると思いますけども、徴兵令の改正によ

る徴兵猶予の特典がなくなっただけで、社会もすよね。松本亦太郎が公立中学に変わるの、徴兵令のためですよ。新島に相談に行ったら、新島は仕方なしに、そっちのほうがいいだろうというようにことね。同志社内部の問題じゃなくて、外部の政治的な問題が理由でやめていく……。

竹中 それはたくさんいますよ。

河野 それから、英語の力がある程度ついたとか、逆に英語の授業についていけないとか。

佐野 面白いなと思うのは、松本亦太郎にしろ五島清太郎にせよ、同志社を去ってから同志社とのつながりが深いことですね。

辻野 卒業生より中退者のほうが、同志社に対する愛着が深い面がありますね。

河野 その最たるものが徳富蘇峰ですね。

あれだけ一生懸命新島を助けた人は、ほかにいない。新島との個人的な関係が大きいには違いないですけども。

伊藤 要するにね、退学の意味がいまと相違うので、明治の初めの激動期ですから、学校という制度そのものがそんなに固まっていなくて、実力主義で、実力が身につけら

れるならどこの学校でもいいわけで、社会も流動的だし、退学が多いのはべつに同志社が例外ではないと思いますね。

同志社への入学の動機

河野 同志社がどういう学校か知らずに入ってきた連中が多かったというお話ができましたが、中退者ですけども、元良勇次郎などは同志社をよく知っていたはずですね。ドイツの書生で、ドイツに連れられてやってきたんだから。大西祝にしてもそうですね。

竹中 元良は三田から神戸へ出て、ドイツで鍛えられてきたいちばん初代の同志社人でしょう。大西は、生家の木全家も、養子先の大西家も岡山の熱心なクリスチャン・ホームだった。木全家は新島とも親しくて、一緒に高梁伝道などやっていますから、同志社がどういう学校かは十分承知だった。

伊藤 ただ、元良の場合、キリスト教が最大の関心だったかどうか、ちょっと疑問ですね。最初に同志社に入学者のなかで、その猛勉強ぶりで、熊本バンドからも一目置かれた存在でしたが、人脈は蘇峰らと親しいで

すし、貧しい家庭でしたから、立身出世して何とか母親を幸福にさせたいという意図があったと思います。同志社で愛読したのがカーペンターの『メンタル・フィジオリジ』とやらんでスマイルズの『自助論』だったと書いていることから、そういえると思います。

本井 中島力造であつたか正確には覚えていませんけれども、熊本バンドの連中は、自分たちより先に入っていた連中よりくなくやっはいないと言っていたと(笑)。しかし、その中に二、三光った人がいて、東大の教授になったりする。そういう人は、自分たちは何も卒業するつもりで同志社へ入ったんじゃないと、公言していたような記憶があるんですけどね。いい学校があればいつ変つてもいいんだと。新島がいる学校だからということでも来たのかどうか、ちょっと疑問ですね。

佐野 中島は元良の追悼文に書いています。彼は最初、東京に出るつもりだったんですね。中島は福知山出身で、福知山から神戸に出て、神戸にいるとき同志社の創設を聞いて、新島に直接会つたらいいですね。すると、新島が「勉強したいなら同志社でできるよ」ということで、とりあえず京都にとどま

つたようですけど、おっしゃるように宗教には全く関心がない。

河野 入学してからも、あまり宗教には関心を示していないようです。

佐野 ミルの経済学とか哲学を読んで、それでもって新島と激論を交わしたり……。海老名弾正など、同志社にもすごいやつがいると、びっくりしていますね。

竹中 後に長年、今治教会の牧師をする岡山出身の露無文治も、自分は洋行するために英語を学びたい、それには同志社がいいというので入学したと、思い出に書いていますね。入学してキリスト教の勉強をするようになり、しまいには牧師になるんですね。

熊本バンドの人たち

河野 その点、熊本バンドの連中は、洋学校が廃校になるという事情があつて、ジェーンズの紹介で同志社へきたわけですから、どういう学校か知っていたはずだと思うんですけれども、入学してから不満たらたらずで。(笑) 浮田和民が新島の追悼演説でのべていることですが、施設は貧弱だしろくな教師はいない、いっそのこと止めてどこかへ変りたいと、

たまたま京都へきたジェーンズに相談に行つて不満をぶちまけた。すると、ジェーンズは非常に怒つて、「わたしは同志社はすばらしい学校だと思つて君たちを推薦したんじゃない。しかし、デイヴィスという男は見どころがある。将来に期待できる男だ。同志社は君たちの学校だと思つてよくしていけばいいじゃないか。よくしていくつもりがないのなら帰れ。旅費はおれが出してやる」(笑)と言われて、しゅんとなつたか考えを改めて一念発起したか、明治十年にはあの連中が同志社の寮則なんか整備するんです。とにかく、集団退学の寸前までいつていたのはたしかです。

本井 あれはジェーンズがたまたま京都に來ましてね、デイヴィスがまだ柳原邸にいた、そこで会談したんですよ。それが決定的ですね。もしあれがなければ、恐らく熊本バンドは総退陣ですね。ジェーンズは同志社の影の恩人ですよ。

伊藤 この熊本バンドがいろいろとプランを出して同志社を改革して、しかも新島は彼らの意思を尊重するかたちで同志社を改造していきますけども、それが新島の教育理念と本当に重なつていたのか、ある程度自分の信

念でないことにも妥協しながら応じていた面もあるんじゃないかなと思うんですね。たとえば規則をいっぱい決めていきますけども、それ以前の同志社には漢学塾風の雰囲気があったわけで、蘇峰なんかはむしろそういう新島の風貌を評価するわけです。

河野 新島は法三章でいい、細かいことは運用面で、という考えの人ですね。

伊藤 恐らくその違いが自責事件なんかにもつながつていと思うんですね。

それから明治十年に奉教記念会を京都でやり始めるんですね。そこでは生徒が聖餐式をつかさどる。それが何年か続きますけど、まさに熊本バンドの花岡山の儀式をそのまま同志社に持ちこんだ。そういうことが全く疑問なしにすんなりと受け入れられたのか。それとも熊本バンドとの妥協の上に成り立っていたのか、微妙な気がするのです。

竹中 ぼくはかなり妥協だったと思いますね。

河野 新島の？

竹中 新島だけでなく、当時の同志社の学生たちも教師たちも。ぼくは熊本バンドの記念会を彼らがやりたいというのに、反対し

てはちょっとぐあい悪いだろうということだ
ったと思うね。奉教記念会がおこなわれる一
月の末は、万国キリスト教学生キリスト者の
祈禱日にあたるのですよ。奉教記念会と重な
るわけだ。

ぼくは世界学生キリスト者運動の役員もし
てまして、初めは知らなかったんですけど
も、祈禱日のメッセージを書いてくれと頼ま
れてね。ジュネーブでそれを印刷して全世界
に送るのですが、その学生キリスト者の運動
は一月の末なんですよ。宣教師たちは恐らく
世界学生キリスト者の祈りをそこでしてほし
いと考えただろうと思うね。しかし、熊本バ
ンドのほうが強くなつて、祈禱会のほうは一
歩退くような形で、ずっと熊本バンドの会を
やっている。

ぼくの想像ですけど、熊本バンドじゃない
人たち、神戸から来たり、四国から来たり、
新潟から来た人たちね、彼らは相当我慢して
いたと思うな。この兄さんたちの言うことを
聞いとかなかったら大変だからと(笑)。そう
いう雰囲気はあっただろうなア。

河野 そういうことも考えられるでしょう
が、新島は学生たちの自主性を尊重するとい

うことで、あの記念会を容認してたんじゃ
ないかとも考えられますね。キリスト教に関
することでもありますしね。教会や寮の運営
のまかせ方をみてそう思うんです。

佐野 それはありますね。

伊藤 そうですね。ありますね。

河野 自治、自主を尊重しますから。学生
生徒に対してだけでなく、宣教師たちの考
えは考えとして尊重していく。だから、組織
リーダーとしての統率は、かえって困難なん
です。

伊藤 ボランティア・アソシエーションを
尊重するというアメリカで身につけてきたこ
とを日本でやろうとした……。

河野 もう一つ気になっていることです
が、『創設期の同志社』に、だれが語っていた
か、新島の学問は大したことない、市原の方
が上だと思つたり、蘇峰の『自叙伝』にも、
熊本バンドの先輩の中には、新島を軽いとか、
学力がないとか、頼りないというので侮つて
いる人間がおつたけど、自分はそうじゃなか
つたと書いている、そのことですね。

伊藤 その辺はやはり、熊本バンドと同志
社の関係の大問題だと思うんですけど、要

するに、熊本洋学校でジェーンズから非常に
強い影響を受けて、しっかりと勉強して学問的
な基礎をつくつてきた連中から見ると、同志
社の学問は頼りないという失望感があつたと
いうのは事実だろうと思います。その確執が
底にある。

蘇峰は同志社における熊本バンドの意味を
ちよつと『三代人物史』の中に書いています。
蘇峰自身は熊本洋学校の五期生でありなが
ら、しばしば自分は熊本バンドではないと否
定する複雑な感慨を持っている男ですけど
も、熊本バンドが同志社に来てよかったこと
として、一つはとにかく同志社に堅牢な大黒
柱ができたこと、第二番目には学問熱が出てき
たこと、三番目に新島が外国人宣教師に抗す
ときの援軍ができたこと。以上がプラス面。
マイナス面としては、熊本風の英語の発音を
持ち込んだこと。それから最後までジェーン
ズ陶醉からさめなかつたことだ、と蘇峰はい
つていますね。新島に対してよりもジェーン
ズ崇拜のほうが強かつたことの違いだと思ひ
ます。

佐野 中島力造は新島の苦勞をよくつかん
でいますね。一つは、熊本バンドからいわば

理不尽なほどの詰め寄り方をされて苦境に立たされたこと。もう一つは、宣教師側からいろいろな要求を突きつけられたこと。新島のパーソナリティーじゃないと、あれを切り抜けて同志社を維持できなかっただろうと言っているんですね。

外国人宣教師たち

河野 その宣教師たちと、新島ひいては同志社の問題ですけれども、創立当初の同志社は明らかに宣教師の主導でした。その宣教師たちと学生、さらには日本人教員の確執の間にあつて、新島は非常に苦しんだわけで、遺言にもだから宣教師との関係のことが出てくるんです。同志社は自分たちの学校なんだと思ひ込んでいた彼らにすれば、新島は名義上の校長なんです。

竹中 宣教師が中心であつたということ、は、英学校よりも女学校に非常にはつきり出てくるんじゃないでしょうか。

麻生ゑいという人の記録がありますな。この人は新潟の与板の三輪家の人です。三輪家からは女性が二人、男性五人が同志社へ来るのですよ。礼太郎とか、一人は同志社の国語

の先生になる三輪源造ですわ。

ゑいの記録を見ると、三年間か四年間か同志社にいる間、一回も帰らなかったんですね。その間に何べん退学しようと思つたかわからないほどだと書かれている。なぜかというところ、宣教師が、専横であつたというんですね。横暴であつたというわけですよ(笑)。それに耐えられなくてももう帰ろうと郷里へ手紙を出す。すると、お父さんが、「新島先生がおられる学校だから、新島先生を尊敬してやれ」と言ってくる。それで帰れなかつたということを書いてますね。そのおやじさんは七三郎という人ですが、新島と恐らく直接親交はなかつたと思いますよ。

ぼくもこの間、与板へ行ってきました。当時あそこから来るというたら、まず人力で出ていって、富山のあたりから船で敦賀のほうへ行つて、それから琵琶湖を渡つて来るわけでしょう。そんなところから、どうしてやってきたのかいろいろ調べていたら、最近、三輪興次郎の手記が出てきた。それによると、津田仙の勧めなんですよ。三輪家の一族の一人である振次郎が同志社に最初に来たんですけれども、彼が東京の学農社で勉強するんで

す。振次郎が津田が、「京都には新島という立派な先生がいる。そこへ行つて勉強しろ」と。

本井 宣教師の力が圧倒的に強かつたのは確かでしょうけども、こと教えるということに関しては、ラーネッドは別にいたしまして、デイヴィスあたりも最初からそんなに学識の高い学者じゃなかつたと学生たちも言ってますよね、努力してだんだん学者になつたなんて。(笑)

河野 そうなんです、アメリカン・ボードという背景があるから威張つていた。新島や日本人教員たちの影は薄かつたと思うんです。特に学校行政、学校管理の面では。

本井 新島には、同志社は自分の学校ではないという、畏れにも似た気持ちがあつたと思いますね。自分を中心になつてつくつた学校ですけれども、いまの私学の創設者やワラン理事長と違って、これは神から託された事業だと。人がいないからたまに自分がやっていただけで、という謙虚な気持ちがあつたと思います。だから自分の意に沿わないものが多々あつても、それはそれでという我慢があつたでしょうね。

たとえば小ぢなことですけど、同志社は

彰栄館の名前を彼の留守中につけてますよ
ね。私はあれ、どうも解せないんですね。いまの感覚ですと、最高のリーダーに一応お伺いを立てますよ、任されても。ところが、外遊中に決まった。彼は校長でしょう。ちょっとあれはおかしい。

佐野 普通の校長ならちよつと我慢できない。

本井 これで管理者かなと思いますよ。

河野 ですけど、その前に施工者を呼んで彰栄館の入札をさせることなんか、全部グリーンがやってますからね。資金も彼がアメリカン・ボードから調達してきましたしね。

本井 でも館名ぐらいは、いまの感覚ですと社長とか校長がつけますよ。あるいは自分で館名を書いて、これを掲げるというふうにしますよ。彼はほとんど現場に任せきりだったのか。

河野 新島の人格にもありますが、宣教師の力は、当時の同志社ではわれわれが想像する以上に強かったという気がするんですよ。たとえば安部磯雄や村井知至が神学科を退学する前、グリーンへの授業が、今のままで時間むだだから、やり方を変えてくれるよう

に言うてくれと、幹事の市原盛宏にいうんだけど、市原は遠慮した頼み方をしたので、グリーンはかえって感情を害するし、村井や安部は失望して退学してしまう。池袋清風の日記にそういう経過が書いてあるんです。新島は二度目の外遊中でそのときは留守でしたが、ああいうケースをみると、新島だけじゃなしに、日本人の教師たちも外国人の宣教師たちに対しては、かなり遠慮しているという気がする。逆にいえば宣教師が幅をきかせていたといえるように思うんですね。安部や村井も市原など通さずに直接要求したらいいと思うのに、やっていない。

本井 だから館名ぐらい小さい問題だと(笑)。

河野 そうです(笑)。だって、グリーンは金集めから設計、入札、監督と全部やる。オーナー兼設計、施工監督なんだから。

グリーンが悪口のようなことばかりいつて申し訳ないんだけど(笑)、明治十九年に九名の集団退校事件というのがあったでしょう。その顛末は青木要吉が『創設期の同志社』の中で、かなり詳しく語っているし、『同志社百年史』の資料編にも載っています。退校の

最大の理由は、新島校長とグリーン宣教師の意見のくいちがいなんです。

明治十九年にカリキュラムに改訂があった。普通科の五年生は新しいカリキュラムで設けた学科科目をとれないから、もう一年在学期間を延長して勉強してもらってはどうかという意見が教員間にあった。新島は五年生に対して、卒業資格はあるのだから、卒業するか一年延ばすかはあなたたちが決めればよいといった。自主性の尊重ですね。

ところがグリーンは四年生の教室で、五年生は学力不足だからもう一年残ってもらふ必要があるといったわけです(笑)。それで五年生が怒った。グリーンはなんで直接おれたちに言わないで、下級生の前で公言しておれたちに恥じをかせけたのか。新島先生は君たちに判断をまかせると言ったじゃないか、同志社ではだれを信頼したらいいんだとね。

新島に血判を押した抗議文を残して彼らは立ち去ったんですが、新島はずいぶん困っただろうと思うんですよ。しかし、「私が校長だから、私のことばに従ってくれたらよい」とは彼らにいつていない。問題はそこなんです。退学した連中が大阪で借家を借りて住んで

いることを知ると、新島はひどく心配して、市原盛宏や宮川経輝らに頼んで帰校するよう説得してもらう。それもまた、いかにも新島らしいんです。(笑)

佐野 退学した人たちは戻ってきたんですか。

河野 戻ってきたのは半分ほどですね。

本井 グリーンと新島は合わないんですよ。東華学校をつくる時も意見が違った。

河野 そうですか。学生の評判がわるかったのはたしかのようですが、重要文化財の建物を五年余の在職中に三棟も残しているんですけどね。

佐野 グリーンは沢山保羅を評価していたようです。新島よりもむしろ沢山保羅を買ってましたから、どっちかというと新島のやり方には批判的だったんじゃないんですか。

本井 概して大阪ステーションの連中はそうですね。それがどうして同志社に来たのかというのがちよつと？

河野 明治十九年ですが、小崎弘道や松山高吉などが、グリーンは学生たちの評判もすごく悪いから、東京へきてわれわれの仕事を手伝ってもらえないかと新島に依頼している

んです。すると新島は、これから自分は大学設立の運動をやるうと思っているの、グリーンのような人がいなければ困るんだ。確かに教授としては問題がある。だけど、本人もだいいぶん心がけを入れかえて、最近よくなっているからと(笑)。グリーンと相談の上のことでしょうが、同志社へ引き止めますね。それで彼はそれ以後二年ほど同志社にとどまって、チャペルと有終館をつくるんです。

初期同志社の授業

河野 グリーンは特別のケースだとしても、宣教師たちは「同志社」とはいわないで、キョート・トレーニング・スクールという校名でアメリカン・ボードの本部に報告しますね。アメリカン・ボードが創った学校だと考えていた。少なくとも明治二十一年に「同志社通則」が制定され、日本国内で大々的に新島が募金運動を展開するようになるころまでそうだった。デイヴィスも、新島にも山本寛馬にも事前に相談せずに何かを決めても、新島はほとんど異議をとねえたりしなかったと新島伝に書いています。教授法やカリキュラムも彼らが決めたかと思ってい

が、その点について、佐野先生なにか。

佐野 『創設期の同志社』によくできてきますが、いわゆる開発主義とか、開発法とかいう方法が採用されています。これは自分でテーマを決めて、自分で本を探して学習して、わからんことは先生に聞きに行くというやり方なんです。ですから教師が生徒を教室に集めて教えるというやり方じゃないんです。とくに「自勉自修」と称して自分で学習したことを発表し、それをめぐって討議するという方法です。討議を大切にしみんなで真理、真実を探究するという方式です。ですから、新島も数教科を教えることができたのですが、これは大変なことでした。代数にしても、また物理にしても。

河野 天文学とか。

佐野 ええ。ああいうことは実際になかなかできるものじゃないと思うんですけど、ある課題を与えてこれを読んでこれで学習しなさいという指示をしておいて、その後で質問のやりとりをする。そのやりとりはむしろ、教師と生徒というよりも、ある意味で同格じゃなかったかという気がするんです。そうすると、新島がやり込められたとい

うエピソードがよく出ますが、新島は非常に熱心に答えるものですから、激論しているという格好になる。

河野 小崎弘道たちはデイヴィスと三十時間議論したとか、新島をいためつけたとか(笑)。そうかなア、教師と学生という関係じやなしに。

佐野 関係は関係なんです。けれども、教師が用意したものを伝達するという形ではなくて、本を読まして、質問させる、あるいは議論をするという格好なんです。議論になってきますと、先生だからといって遠慮なくやるという場面がしばしばあったんじゃないかと推察されますね。

竹中 『創設期の同志社』に松尾音治郎がのべているんですが、自分は学生のころスペンサーに非常に関心を持って、スペンサーの *First principle* を読みたいとラーネッドに言ったら、ラーネッドは同志社にないからと外国へ注文するわけですね。その本が着いたというので松尾がラーネッドの家へ行くと、ポリーネのスペンサーについての評論の本も一緒に取り寄せてくれていた。そういうのを読んで自分はスペンサーを研究するようになった

と。それを読むのならこれも読んでおけと言つて与えているところに、ぼくは初期の同志社の教授法と、それから学生の取り組み方が現われているんじゃないかと思えますね。

河野 さきほど、新島は個性に応じた接し方をしたというお話があったように思うのですが、教育にも現われているでしょうか。

佐野 そうですね、中島や元良に対しては宗教の議論はよろしい、しかし、礼拝だけは出なさいよという。やりたいことは徹底的にやりなさいということですから、個性を見ての指導ですね、これは徹底しておったような気がします。それと、当時アメリカに入っていたベスタロッチ主義の教育思想で訓練された宣教師が、特に婦人宣教師などが日本に入ってきているんですね。その人たちが先ほどの開発主義的教育法を実践しておりますが、それも個性を大切にしている教育法です。教育方法としてはリベラルであつたように思いますがね。そのことを新島はかなり意識して指導していたように思います。

辻野 ちょっと別の話なんです、当時の同志社の授業は、みな英語でやっていたんですか。

河野 そのようです。普通科の一年生は別ですけれども。新島はじめ日本人教員も。

佐野 おもしろいのは三宅驥一の、ニックネームが「Cat」ですね。これは授業の中で質問されたら「Cat」と返答することからつけられたようです。明らかに授業が英語で行われておった証拠ですね。東京大学も初期にはそうだし、それから東大予備門などでもほとんどが英語で授業を行っておったということです。予備門から東京大学へ入るためには英語力がないとまず入れない。それで同志社から東大予備門に受験した。大西祝はトップで入っているし、五島清太郎も二年生にトップで入っています。同志社の英語は当時すでに注目されていたようです。

辻野 ああ、たとえば社会主義にいった連中でも、それぞれ自分の固有の専門を持っているけれども、教員になって、その学校にポストがない場合、英語の先生を皆やるわけですね。これは大したもの、その典型が村井知至ですけれど。だから英語の先生としての村井と、社会主義の村井が同一人物だったのかとびっくりする人がいますね。上野直蔵先生もその一人でしたが。

佐野 初期の卒業生名簿を見てまして、学究的な道を選んだ人以外は、旧制の高等学校や尋常中学校に勤めている人が多い。だいたい英語の教師だったと思いますね。

伊藤 戦後の『同志社時報』に海老名(横井)みや子の回想がありますけども、みや子は英語ができたので男子の学校へ通って講義を聞いたと。彼女はこう書いています、「授業はことごとく英語をもつてされました。当時、教科書も英語よりほかにありません。私は新島先生から物理、金森先生から代数、山崎為徳先生から歴史、修辭学等を習いました」。ですから、英語で全部をやったんですね。

竹中 同志社の男女共学は海老名弾正総長のときから実施されたと言われているけれども、初期のころはいまおっしゃった横井みや子とか……。

佐野 聴講しました。

伊藤 横井みや子と山本みね子の二人が許されてますね。蘇峰なんかは同志社に来たとき英語の聞き取りがまだ恐らくあまりできなかったと思うんですけども、熊本洋学校時代の最上級生であったバイブルクラス(余科)の人たちから通訳のような形で聞いています

ね。これは熊本洋学校と同じじゃないかって、すごく不満に感じたって書いてますね(笑)。

初期同志社出身の社会主義者たち

河野 留岡幸助、山室軍平、そして牧野虎次といったいずれも新島を生涯敬愛した社会事業家たちは、新島の影響を受けて、ああいう分野で活躍するようになったとみていいでしょうか。

竹中 大塚素とかね。同志社のキリスト教の精神は広いけれども、やっぱりベリーの感化というのは大きいんじゃないでしょうか。

ベリーはお医者さんとして監獄にいる人たちを訪ね、監獄改良を提言します。社会事業に進んだ人たちにとって、同志社における人類愛と同時に、ぼくはベリーの感化が強かったと思いますね。

河野 辻野先生、社会主義者たちはどうですか。

辻野 日本の社会主義運動は同志社から始まったと私が唱えだして、まずこれは学界で認められるだろうと思うんです。従来はこう言われていたのです。山路愛山が言い出したんですが、社会問題研究会というのがあった

と。片山潜も幸徳もそのメンバーなんですね。社会問題を賛否両論いろんな立場の人が研究する。ところが、あまりに雑駁なので、焦点を絞って社会主義研究会になった。社会問題から社会主義に研究の焦点が絞られたと。それが実践へ発展していき、今度は社会主義研究会から社会主義協会へ変わり、そして最後に社会民主党になったと。

それは違うんじゃないかと、村井知至の研究を始めたときにちよつとひらめきまして、それから克明に調べていくと、社会問題研究会と社会主義研究会は何の関係もないのです。メンバーに片山だとか幸徳が加わってまずけど、社会主義研究会というのは、同志社の安部、村井などがつくつたものなんです。安部、村井、岸本能武太、新原俊秀。これに山岡邦三郎を会わせて五友と称しているのです。その中でも安部、村井、岸本を三幅対と言ってます、この連中はユニテリアンになった連中ですね。社会主義というのは応用キリスト教だ、キリスト教と社会主義は異名同体だというんです。現実の世界を解決するのは社会主義で、精神のほうはキリスト教でという、彼らが中心になって社会主義研究会

ができてまして、幸徳に呼びかけたりするんですね。片山潜はアンドウヴァー神学校で村井の後輩なんです。村井知至のご子息に聞きますと、「片山に社会主義を教えたのは私だと父がよく言うていた。家では潜さん、潜さんと呼んでいた」というような関係でして、だから安部、村井のグループに岸本能武太も加わって、その後さらにかつて社会問題研究会のメンバーだった幸徳を呼んだり、その他の人を呼んでいた。だから、社会問題研究会と社会主義研究会は全然別であることがはっきりしてきたわけです。

竹中 それはわかるんですが、社会主義研究会の主な人物は同志社が輩出した。特に先にいわれた三人ですが、三人とも外国に留学していますね。安部はハートフォードで、村井はアンドウヴァー、岸本はハーヴァードかな、片山もイェール大学と、アンドウヴァーにも行ったのだったか。

辻野 アンドウヴァーとイェールですね。

竹中 アメリカへ行くことによって社会主義に目が開かれたのか、あるいは同志社の学生時代にその芽生えがあったのかな。

辻野 それは同志社のときからです。

竹中 しかし、具体的にはどういうところに触発があったんですか。

辻野 ラーネツドの影響も安部の場合は大きいですね。さらに留学して、それを深めたり、それから社会主義の前段階の社会事業の実地見学をするとか、いろいろやっています。ただ、同志社出の人たちは大学教師とか、職業をちゃんと持っているわけです。そして極端に言えば一日のうちこれだけの時間、一カ月の生活費のうちこれだけを社会主義運動に投入しようというやり方です。そこへ職業的社会主義者が入ってくるわけです。幸徳、堺グループなどで、彼らに乗っ取られたというような格好がないわけではないのです。ただ、荒畑寒村なんかも書いているのは、当初の社会主義運動はキリスト教とより二つで、社会主義協会入会の儀式から何から、教会のやり方をちよつと変えてというふうな感じなんです。

本井 ラーネツドの影響が住谷悦治先生以来よく言われてますけども、本当にそうでしょうかね。

辻野 安部の自伝を読むと、そう書いてありますね。

本井 それはあとからの追想でして、当時ラーネツドの授業を聞いて、これだというふうにひらめく学生がはたして何人いたのか疑問に思えます。というのは、ラーネツドは体育を含めまして、教えない教科がないぐらい教えるのです。だから彼の政治、経済学もワン・オブ・ゼムなんです。彼が社会主義だけをとりたてて強調したなら別の話ですが、百科全書的にあれだけ教えた中で彼は平板に触れているだけでしょう。実に啓蒙的で、その授業から社会主義がピンとひらめく学生がほんとにいたのかどうか。もともと専門はギリシア語でしょ。

辻野 いや安部も村井もみんな、そこから発展しましたね。たとえば村井は日本で初めての『社会主義』という本を書くのですけれど、キリスト教と社会主義の関係でこう書いてあるんですよ。精神、思想ともほとんど等しくして、名前が違っただけだと。両者の共通点を七つ挙げてまして、「おのおのその理想と目的を一にせり」、二番目は「その道を伝えるの熱心相似たり」、三番目が「等しく社会の迫害にあえり」。四番目が「伝播の速やかること相似たり」。五番目が「その思想におい

とともに世界的なり」。六番目が「等しく貧民に對して同情の涙を注げり」。七番目が「ともに兄弟相愛するの美麗なる精神に富めり」と。伊藤 當時の日本は貧困問題とか社会問題が厳しいですから、それを解く鍵を探していて、講義を聞いてこれだと思う学生が出た可能性はありますね。

教育界の人たち

河野 佐野先生、教育界に活躍した人たちはどうでしょうか。

佐野 一つは、同志社を卒業して同志社に残った人、たとえば森田久万人のような人たち。それからその中に、牧会に献身しながら学校を兼ねた人たちがいますね。たとえば宮川経輝でも梅花女学校の校長をしている。麻生正蔵は日本女子大。それから横井時雄にしたって同志社にもかかわっている。

竹中 亀山昇もそうですね。これは尼崎のほうやね。

佐野 そうですね。同志社を卒業して同志社に残った方と、牧会に献身しながらキリスト教系の学校に残った人たちは、私はキリスト教教育の一つの素地をつくったのはこの人た

ちではないかと思うんですね。

それからもう一つは、同志社を出て東京大など上級学校に行ったり、アメリカに留学して帰ってきた人たちが高等教育機関の教員になっているんですね。浮田和民がそうだし、村上直次郎、大西祝などもそうですね。それからいま出てました社会主義関係のところでは大西、安部、岸本、村井、それに新原俊秀でもこれは神奈川師範——。

辻野 ただ、最後は文部省ですね。

佐野 これらの人たちのうちで浮田、大西、安部、岸本は早稲田に拠点をつくったと思うんです。それに沢山保羅の弟の沢山雄之助が学習院でしょう。南熊夫は慶応義塾なんです。ですからこの十四年から十六年に卒業した人たちが、東大、早稲田、慶応、東京外大、学習院、こういった学校の草創期にかかわっており、その貢献度はかなり大きいんじゃないですか。それから中退組では元良勇次郎、中島力造でしょう。そして松本亦太郎、五島清太郎と。特に五島清太郎なんか東大の動物教室にかなり貢献しています。

河野 三宅驥一も。

佐野 三宅驥一もそうですね。彼は農学部

ですね。それから心理学に至っては、これは竹中先生のご研究の中にありますけれども、元良と松本で、明治、大正の心理学教室を主宰し、東大に心理学の土台をつくっているんですね。

そのほか、初等、中等教育機関、ここをもうちよつと洗わないといけないと思います。やはり新島の感化を受けた人たちが、初等、中等教育機関で非常にいい仕事をしているんじゃないか。この名簿に出ているだけでも、函館中学校、仙台尋常師範、熊本女学校、そういうところの校長などをしている人たちがいるのです。

それから変わり種は十九年卒業の松波仁一郎でしょうね、この人は国旗博士と言われたように、日章旗について非常に詳しいこと、これは辞典にもちゃんと出ているんですけども、この人の提唱で学校に配属将校を派遣させることが決まっている。それからシベリヤ出兵だとか満州事変の強硬策を説いていて、国粹的な法学者として有名な一人ですが、この人が新島先生にものごく心服している。そういう人たちも出ているというのがおもしろい——。

竹中 この人は法学でも商法ですか。

佐野 海商法です。それからもう一つ興味あったのは、(竹中)先生が『同志社心理学教室六十年史』にお書きになった松本亦太郎、元良勇次郎に関する論文ですね、あの中に本郷教会が出てくるんですね。この本郷教会は、

横井時雄、海老名弾正を中心にして、中退組も含めて同志社関係者の溜まり場になるんですね。

河野 大西祝が手伝っていますね。

佐野 そう大西、村上直次郎、中退組の五島清太郎も行っています。松本亦太郎とか。彼らはそこで讃美歌を教えたり、聖歌隊をつくったり、日曜学校をやっているんですね。加えてこのグループの中から、今度は大西が中心になって丁酉倫理会をつくっていますので

しょう。岸本能武太も入っている。

伊藤 それは大したものですね。

佐野 しかも哲学事件があったときに丁酉倫理会はかなりアドバイスしていますね、当時の国粹的な倫理思想に対して、人格主義の倫理思想の確立を提唱しているんですね。だから丁酉倫理会の思想というのは新島につながつているのではないかと、ちよつと我田引

水ですけれどもそう思いますね。

非熊本バンドの人たち

河野 時間の関係でぼつぼつ終りにしたいのですが、伊藤先生、新島と蘇峰の関係について、なにか。

伊藤 蘇峰のばあい、初めて会った瞬間から「この人は本物だ」と新島の人柄に惚れますし、新島も蘇峰を大変高くかいます、やはり非常に人間的な関係でしょうね。それから別の見方をすれば、新島の偉さを見抜けない熊本バンドに対する蘇峰の対抗意識、もつといえ強い批判があったように思いますね。

河野 一致教会との合併問題で、熊本バンドの連中は大体、新島の意思に反して合併を積極的に進めますしね。

伊藤 そうですね。それでやはり「大学設立の旨意」を海老名たちとはなくて、蘇峰と一緒に新島裏はつくりますでしょう。

河野 「同志社通則」もそうですね。湯浅治郎も一緒に……。

伊藤 その辺でやつぱり兩人のアイデンティティーが一致してたのじゃないでしょう

か。蘇峰と新島裏の関係は非常に深い信頼関係によって結ばれていたように思います。

本井 熊本バンドの連中は結局、新島伝をだれ一人書いてませんね。新島が死んだ直後に書けと言われたのは蘇峰ですよ。自分で立候補したのかどうか知りませんが。

辻野 だが、どこで指名したんですか。

本井 同志社ではないでしょうか。

河野 校友会かもしれない。

本井 英文の伝記がデイヴィスに決まったのは、どうもミッシェンの指名みたいですが。

河野 のちに柏木義円、今泉真幸、波多野培根、水崎基一といった人たちが、断片的にもせよ新島伝を書きますし、山室軍平は新島についてしばしば講演しますが、熊本バンドの人たちにまとまった新島伝がないですね。彼らは同志社の校風をつくる上ではリーダーとして大きな功績があったと思うし、キリスト教会の重鎮として大きい足跡を残します。彼らは彼らなりに新島の遺伝を継承しているのは間違いないでしょうが。

伊藤 同志社で学んだ非熊本バンドにもっと光を当てる必要があるそうですね。牧師

になった人だと、本間重慶、堀貞一、綱島佳吉、松山高吉、大久保真次郎、柏木義円などがいますからね。彼らはかなり熊本バンドと違った視点で同志社を見たと思いますし、その後の活躍もあったと思います。蘇峰はこの人たちとむしろ仲がよくてつながっていたようです。

河野 人数からいえば圧倒的に非熊本バンドが多いわけですから、山岡邦三郎、露無文治、吉田清太郎……。特に新島の晩年、明治二十年代に入りますとね。

伊藤 それからもう一つ、いままで話題に出てない実業界と同志社人の関係がありますね。初期の卒業生名簿を見ますと、神学科、別科、普通科を含んで百七十七名卒業生がいますけれども、そのうち六十一名の職業が実業となっていて三四・五%といっぱい多い。教育が三十八名、二一・五%。布教が四十七名、二六・五%。修学というか、進学が十五名で八・五%。社会主義者も出るのですけれども、日銀総裁とか実業家もいっぱい出るので、その辺、面白いですね。

河野 宣教師たちはどう考えていたか詳らかにしたいですが、新島は伝道に従事する

卒業生が出ること強く望んではいても、個々人の意思を極力尊重していますね。知徳並行教育がやはり主眼であつたと見ていいように思うんです。

竹中 ぼくはやっぱり実業界に出た人にとつては徳富蘇峰の影響が大きかったんじゃないかと思えますけどね。深井英五がいちばんいい例で、東京に出ると徳富を頼るでしょう。東京に出た初代の同志社人が頼つた人は津田仙ですよ。その次に出た人たちが頼つた人は徳富です、明治十九年以降はね。

新島襄の感化

河野 いろいろ興味ぶかいお話をありますがうございました。初期の同志社人は人数が多くないわりにずいぶん多彩だし、バラエティにに富んでいることがよくわかりました。中途退学者を含めると、いつそうそういえるでしょう。

だから彼らが新島から何を学び、どのような感化を受けたかとなると、簡単には言いがたいように思います。まア、お話の中でも、新島の顔が表に裏にちらちら覗いていたわけですからね。

竹中 初めにも言ったように、やはり、なんといいっても人格的な感化ですな。これは卒業生と中退者を問わず、大体共通していえるんじゃないですか。

河野 同感ですね。

竹中 新島は自分を人によく見せかけようとか、虚飾というものが一切ない。非常に地味だけど。ただ、あんまり正直すぎて、遺言の中の金森に関するような点がね、つい出てくるんです。なにごとに対しても非常に正直で誠実なんです。そのことは学生に対する受けこたえにもあらわれていますな。

河野 晩年の横田安止あての手紙などそうですね。おそらく横田がよこした手紙に対する返事として書かれたものでしょうが。

竹中 あんないいい手紙を横田だけがもらつて、ほかの寮生たちはひがんでいたかも知れない(笑)。正月の「いしかね」のうたの書初めだつてそうでしょう、一点はそつと横田にやつてくれといつて八重に送っている(笑)。えこひいきだとかそういう気持は新島には全くない、ただ誠実にこたえようとしている。

辻野 この男はわたしの気持がわかってくれていると思つていたのかもわかりません

よ。

本井 新島は人を見る目がなかったと批判する人がいますね。福沢だったら、これは大物になると思えば手をかけるし、だめなやつは全然相手にしないと。新島はむしろ逆だと。新島があれだけ心かけた人が将来出世してないじゃないかと。

河野 俗にいう出世を新島はあまり望んでいないでしょう。深井に対してだって「社会の役に立つ人間になりなさい」と言っている。働く分野はさまざまであれ、端的にいえば、地の塩、世の光になるように、というのが新島の学生生徒に対する願いであつたし、そのことを卒業生も中退者も程度の差はあれ感じとっていたように思うのです。

それではこの辺で終りにさせていただきます。長時間どうもありがとうございました。

(一九九一年十二月二十四日収録、於有終館担当理事室)

同志社校地出土の埋蔵文化財(21)

だんつきいしぐみあなぐら

段付石組穴蔵

鈴木 重治



江戸時代
同志社女子中・高校静和館地点出土
220 cm × 70 cm × 70 cm

同志社女子中学・女子高校の位置するあたりが、江戸時代に公家の二条家の屋敷であったことはよく知られている。

この周辺での発掘調査は、同志社女子大学や同窓会館・幼稚園地点を含めると、すでに六回に及んでいて、土地利用の変遷を含めて考古学的な資料が蓄積されている。

それらの中には、大量の土器や陶磁器などの遺物に加えて、構築物の一部を示す遺構が含まれている。建物の礎石や井戸なども検出されているが、注目してよいものに、地下式や半地下式の石積の貯蔵庫と考えられた遺構がある。

方形や長方形の平面形態をもつのが一般的で、自然礫や割り石、切り石などを使って石室を構築している。安土・桃山時代から江戸時代の初期の石積み遺構の中には、石材不足を補うためか一石五輪塔などの墓碑を転用している例があるが、社会の安定する江戸時代中期以降では、墓石を転用した例は検出されていない。

切り石を用材とする例の中には、大阪の長堀銅吹所跡の住友家座敷蔵のように、床石を二段に組んだ特殊な遺構もあるが、公家屋敷からの出土例は、床に石材を敷かない例が多い。

写真に示した遺構は、東西方向に長軸をもち、両端にそれぞれ四段の階段を設けた点に特徴があり、天明八年(一七八八)の京都大火後の築造であることが確認されている。

(同志社大学校地学術調査委員会調査主任)